

おいしい米づくり情報

2019/07/02

第8号

庄内総合支庁 農業技術普及課
Tel. 0235-64-2103



生育に合わせた中干しで穂肥のできる稲姿に！！

●生育状況

7月1日現在の生育状況は、「はえぬき」では草丈・茎数・葉数が平年並、葉色は濃くなっています。「つや姫」では草丈が短く、茎数は平年並、葉数はやや進んでおり、葉色は淡く（指標並）なっています。

作溝・中干しを行い、穂肥ができる稲姿にしましょう。

表1 生育診断圃の生育(はえぬき、鶴岡市矢馳)

年次	アンモニア 態窒素 (mg/100g)	7/1の生育			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
本年	1.1 (-0.6)	43.3 (101)	736 (99)	9.6 (+0.1)	42.1 (+0.8)
前年	1.5	41.8	754	9.3	41.0
平年	1.7	42.8	740	9.5	41.3

表2 つや姫展示圃の生育(鶴岡市上清水)

年次	アンモニア 態窒素 (mg/100g)	7/1の生育			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
本年	1.1 (-0.4)	42.3 (96)	581 (99)	9.5 (+0.2)	39.9 (-2.2)
前年	1.5	43.4	588	9.3	42.2
平年	1.5	44.0	586	9.3	42.1

●中干しの目安

穂肥を施用するまでには下表を目安に中干しを終了させましょう！！

地力が低い～並・ 生育が小さい	7～10日間を目安に、小ひびが入る程度に中干しを行いましょう。
地力高い(復元田含む)・ 生育量が過大・葉色濃い	やや強めの中干し(11～15日間を目安に大きなヒビが入らない程度の落水状態)が効果的です。

◎まだ中干しを行っていない場合は、ただちに中干しを行いましょう。

◎穂肥時期まで葉色が下がらなかった場合、控えめの穂肥、または穂肥を見送るなどの対応を検討しましょう。



小ひびが入る程度、普通の長靴で歩ける程度まで中干しを継続しましょう。

●中干し後の水管理

- ◇ 中干しが終了したら、走り水をして、足跡に水がたまる程度にしてから、徐々に間断かんがい(2日湛水、2~3日落水をくりかえす)に移行しましょう。
- ◇ 出穂まで間断かんがいを続けましょう。根の健全化を図りながら、地表付近の根の発達を向上させるためです。この根が、穂肥を効率的に吸収し、登熟を高めます。
- ◇ 穂肥施用時は水尻を閉じて、浅水状態(水深3cm程度)で散布しましょう。



●病害虫対策

① 斑点米カメムシ類

- 斑点米カメムシ類の発生量は6月末時点で、「アカスジカスミカメ」で「平年並」、「アカヒゲホソミドリカスミカメ」で「やや多い」となっています。
高温・少雨の気象条件では発生量が増える傾向にあります。
- 畦畔でカメムシが餌としているのは、主に雑草の種実です。生息密度低減のため、雑草の結実前に畦畔や農道等を除草することが大切です。
- そば作付け予定ほ場も放置せず早めに耕起する、休耕田も定期的な耕起を行うなど、雑草の繁茂を抑えましょう。
- 水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草も、斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促すため、除草対策に努めましょう。
- 斑点米カメムシ対策は個別ほ場の対策よりも地域単位の面的な対策が基本となります。地域一丸となってカメムシ類の適期・適正な防除を徹底しましょう。



アカヒゲホソミドリカスミカメ

② いもち病

- ◆ 補植苗を放置しておくとう感染源となります。直ちに処分しましょう！
- ◆ 葉いもちは、県内でも6月21日に本田で発生が確認されています。6月7日に梅雨入りし、いもち病の感染しやすい日が出ています。常発地や葉色の濃いほ場では、注意が必要です。
- ◆ 圃場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

熱中症予防強化月間 農作業中の熱中症に注意！！

- 作業は涼しい時間帯に
- 塩分と水分をこまめに補給
- 定期的に休憩を
- 作業は涼しい服装で